

令和2年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況	
協議会	名瀬地区	宮古崎	0	60%	波当たりが強く、ハナヤサイサンゴ属が優先。直径20cm程度のミドリイシ属小群体もみられる。食痕や白化はなく、健全なサンゴ群体。
		宮古崎東	0	30%	礁斜面下部のサンゴは壊滅状態だが、礁縁部に直径30～50cmの群体が散見。白化群体やオニヒトデ食痕なし。
		デン浜	0	60%	礁斜面下部のサンゴは壊滅状態。浜中央の水路付近に卓状ミドリイシ類が残る。周辺に新規加入のサンゴは少ない。白化群体やオニヒトデ食痕なし。
		知名瀬大浜	0	60%	礁斜面のサンゴは壊滅状態だったが、新規加入のミドリイシ属が多く、小型群体が散見できる。白化群体やオニヒトデ食痕なし。
		大浜	0	20%	礁縁にミドリイシ属の小型群体が生存、直径20～30cmほどの群体が多い。新規加入のミドリイシは少ない。今年度は白化、食痕なし。
		摺子崎	0	25%	礁斜面のサンゴはほぼ全滅。礁縁にハナヤサイサンゴ属が優先し、ミドリイシ属の小型群体も多い。白化群体やオニヒトデ食痕なし。
		赤崎	0	50%	大規模白化後、回復が遅れていたが、今年度は直径20～30cmの卓状および指状ミドリイシが散見。白化群体やオニヒトデ食痕なし。
		名瀬湾立神	0	50%	大規模白化後、2010年から小型群体がまばらに。直径20～50cm程度の指状ミドリイシ属群体が多い。白化群体やオニヒトデ食痕なし。
		山羊島	0	30%	大型の塊状ハマサンゴ群体が点在し、枝状のコビエダハマサンゴ群落広がるが、破損部分も多い。透視度は10m程度、シルトが堆積。白化群体なし。
		キョナ	0	40%	急速に回復がみられ、直径20cm～40cmの卓状および指状ミドリイシ属群体が散見。白化群体やオニヒトデ食痕なし。
		有良	0	15%	ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴがまばらに。直径10～20cm程度の指状ミドリイシが多い。新規加入は少ない。
		芦花部	0	15%	直径10cm程度のミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴが少数程度で、新規加入は少ない。白化群体やオニヒトデ食痕なし。
		摺子崎礁池	0	5%未満	かつてのコモンサンゴ群落は壊滅。塊状のハナガササンゴの小群落や、塊状ハマサンゴが点在。ショウガサンゴの小型群体が散見。ミドリイシ属の新規加入はほぼなし。
		摺子崎礁原	0	20%	卓状ミドリイシ属が優先。直径50～70cmに成長した卓状ミドリイシも散見できるが、最近死滅した群体や、被覆状コモンサンゴ類に白化が見られた。
		大浜礁池	0	5%未満	昨年度、特に被度の高い地点に変更。2017年度の白化で被度が大幅に減少し、今年度も被度は5%未満。
		大浜礁原	0	30%	駆除等により2007年までのオニヒトデ食害による全滅は免れ、卓状および指状ミドリイシ属が優先。2017年の白化による死滅群体は少数。
崎原東	0	80%	卓状のクシハダミドリイシが優先。離礁上部は大型のクシハダミドリイシ群体。樹枝状のヤスリミドリイシ大型群体も少数存在。台風による破損もなし。		
崎原南	0	30%	サンゴ食巻貝の食痕あり。被食率5%未満。樹枝状のミドリイシ属と塊状ハマサンゴが優先。被度は昨年同様30%。		
仲干瀬崎(小湊南)	0	80%	礁縁にはハナヤサイサンゴ群集、礁斜面上部ではウスエダミドリイシやスゲミドリイシ等のコリンボース状のミドリイシ属小型群体も増加。順調に回復している。		
協議会	住用地区	高浜東	0	75%	白化なし。礁縁上部に卓状ミドリイシ属の大型群体。直径2m以上のクシハダミドリイシや直径1m以上のコビエミドリイシの大型群体。透視度10m以下。
		高浜	0	60%	白化なし。礁縁部に直径40～60cmの指状、卓状ミドリイシ群体。透視度15m程度。概ね健全な状態。被度は昨年度55%から60%に増加。
		鳩ノ崎	0	10%	白化なし。礁原上にハマサンゴ、キクメイシ類、ショウガサンゴの小型群体、海底に大型ハマサンゴ群体が点在。新規加入は少ない。
		スタルトピラ	0	25%	湾奥小滝からスタルトピラに続く小規模なサンゴ礁。礁縁にコビエミドリイシやクシハダミドリイシ等の卓状ミドリイシの群体。白化群体はなし、健全な状態。
		トピラ	0	10%	白化なし。トピラ島側のサンゴ群集周辺の海底には泥土の堆積は見られず、表面にうっすらとシルトが堆積。新規加入が少ない状態が続いている。
		和瀬	0	20%	8月に樹枝状ミドリイシ群落が白化した。その後回復。被度は昨年度同様。
協議会	笠利地区	赤木名	0	20%	白化なし。ハマサンゴが優先し、群集全体の9割以上を占める。その他キクメイシ属やハナガササンゴ属の群体が点在し、ウスエダミドリイシ小型群体が少数ある。
		前肥田	0	30%	コビエダハマサンゴ群落が2016年の白化により死滅。今年度の白化はなし。被度は昨年の20%から30%に増加。
		赤木名立神	0	30%	昨年ハナヤサイサンゴ群体は殆どが白化、ミドリイシ類も色が薄い軽度の白化群体が多かったが、死滅はごく少数と思われる。被度は昨年の30%から40%に増加。
		蒲生崎入口	0	10%	オオウミキノコやバラウネタケ等、ウミサカ科のソフトコーラル類が優先。直径10～20cmのミドリイシ属やキクメイシ科の小型群体も散見。種の多様性が高い。
		蒲生崎	0	20%	小型群体が多い海域。直径20～30cm程度の指状ミドリイシ属の小型群体が散見でき、オヤコビミドリイシやコビエミドリイシ、ハナヤサイサンゴが多い。
		佐仁	0	60%	笠利半島西海岸で特に回復が順調。波当たりが強く、被覆状のニオウミドリイシも多い。台風による破損等があり、昨年度より被度が低下。
		用海岸	0	60%	笠利半島東海岸で特に回復が良好。卓状および枝状のミドリイシ属の小型群体が多く、種多様性も高い。
		あやまる岬	0	50%	直径約40～60cmのクシハダミドリイシやコビエミドリイシが多い。太枝状のヤスリミドリイシも。台風による破損等で被度が低下。
		明神崎	0	65%	波当たりが強い礁縁にハナヤサイサンゴ科の群落が広がる。サンゴ群集は健全な状態。
		用安	0	10%	直径20cmほどの指状ミドリイシ類の小型群体が多い。直径約1mのクシハダミドリイシも。新規加入はやや少ない。台風による破損等により被度低下。
		節田	0	50%	礁縁から礁斜面にかけて卓状ミドリイシ群落が広がる。新規加入のミドリイシ類も多い。2017年の白化・部分死滅により被度が低下したが、回復傾向。
		神の子	0	70%	枝状のトゲエダコモンサンゴや葉状のチヂミウスコモンサンゴ群落。台風による破損により被度低下。

令和2年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
大和村	今里沖	0	10%	ハナヤサイサンゴやミドリイシ属の小型群体(直径10~20cm)がまばら。顕著な回復はない。被度は昨年度からやや増加。
	今里小浜	0	25%	コビミドリイシ等のミドリイシ属小型群体が成長してきている。サンゴ岩表面は付着藻類に覆われ、サンゴの新規加入は少ない。
	志戸勤コモリ	0	20%	礁原上にある直径約50m、水深約10mのすりばち状の窪み(コモリ)。周辺にあまりない種も存在。2018年に白化が発生したが死滅はなし。
	志戸勤礁池	0	10%	樹枝状ミドリイシの小型群体も多く、数メートルに広がる群落も点在。直径30cm程度のウスエダミドリイシ等も。被度は昨年度同様。
	名音沖	0	70%	直径20~60cm程度のミドリイシ属の小型群体が散見できる。国直海域、毛障海域と併せてオニヒトデ駆除海域(保全海域)に選定すべき。
	名音隧道	0	50%	死滅サンゴ骨格上に直径10~15cm程度のミドリイシ属の小型群体がまばらにみられる。新規加入は名音海域より少ない。被度は昨年度より増加。
	ヒエン浜中央	0	10%	ミドリイシ属の直径1m程度の大型群体が少数あるが、新規加入は少ない。被度は昨年同様。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	ヒエン浜戸門側	0	20%	ミドリイシ属の大型群体が少数。ミドリイシ属の小型群体も散見できるが、加入数は少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はなし。
	ヒエン浜礁地	0	5%未満	礁縁では、半球状のリウキュウノウサンゴが散見できる。礁池では塊状ハマサンゴが少数見られる程度で、サンゴの加入はほとんどない。
	大山崎西浜	0	10%	直径10~20cm程度の指状ミドリイシ属やハナヤサイサンゴ、卓状ミドリイシの小型群体やキクメイシ科の小型群体。新規加入は少ない。
	トルス	0	10%	直径10~30cmのコビミドリイシやクシハダミドリイシ等ミドリイシ属群体が優占し、ハナヤサイサンゴも散見される。新規加入数は少ない。
	マッコ	0	25%	直径10~20cm程度の指状ミドリイシ属の小型群体が散見。潮通しも良く、サンゴ群体は概ね健全な状態。
	石川	0	20%	ハナヤサイサンゴや指状ミドリイシ属の小型群体がみられる。新規加入が少ない状態が継続。被度は増加。
	親川	0	30%	直径20~50cm程度の指状・卓状ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴがまばらに見られるほか、リウキュウノウサンゴ群落が広がる。
	宮古崎	0	60%	直径20~50cm程度の指状・卓状ミドリイシ属群体が多い。卓状ミドリイシの成長がみられる。
	国直北	0	85%	国直集落北側の砂浜前面。1998年の白化により壊滅したが、2010年度から小型群体が見られるようになり、被度が増加傾向。
	国直	0	80%	国直集落前面に広がるサンゴ礁。1998年の白化により壊滅したが、2010年度から小型群体が見られるようになり、被度が増加傾向。
	毛障礁池	0	50%	直径60~100cmのクシハダミドリイシやコビミドリイシ等の卓状ミドリイシ類が優占。一部にサンゴの病気ホワイトシンドロームが見られた。
	親川南	0	65%	2010年の奄美豪雨災害の大規模な崩落で白化、死滅。以降、回復が進んでいる。被度は昨年度から微増。
宇検村	曾津高崎東	0	80%	大型の卓状ミドリイシ群体が一面に広がる。サンゴ幼生の供給源としても、周辺海域の回復を促す重要なサンゴ群集。新規加入も多い。白化なし。
	外浜	0	75%	礁縁では被度が高くなり、卓状ミドリイシ大型群体もみられる。20cm程度の小型ミドリイシ群体も散見。白化やオニヒトデ食痕はなし。
	屋鈍崎	0	80%	礁斜面上部に直径40~50cm程度の指状ミドリイシ群体や直径50~80cm程度の卓状群体が多い。被度は昨年度から増加。
	屋鈍	0	50%	2000年に壊滅した地点。直径30~50cm程度の指状・卓状ミドリイシ群体や樹枝状ミドリイシ群体が散見。被度は昨年度同様。
	タエン崎	0	85%	直径10~30cmのコリンボース状および直径1mほどの大型卓状ミドリイシ属のサンゴ群体が散見。浅所では、樹枝状ミドリイシ。被度は微増。
	タエン	0	70%	2018年に白化が見られたが、死滅群体は少数。大型ミドリイシ群体や樹枝状ミドリイシの小群落が見られる。被度は昨年同様。
	枝手久島北	0	75%	卓状ミドリイシ属が優占。1m以上の大型群体や、新規加入のミドリイシ属のサンゴも多い。健全なサンゴ群集が広がっている。一部で台風による破損が見られた。
	倉木崎	0	40%	コリンボース状ミドリイシ小型群体が散見できる。コビミドリイシやオビミドリイシが多い。白化やオニヒトデ食痕はなし。新規加入は少ない。
	船越海岸	0	80%	大型卓状ミドリイシ属が優占する。新規加入のミドリイシ属も多い。オニヒトデ食痕や白化もなく、健全なサンゴ群集が広がり、良好な環境。
龍郷町	嘉渡	0	10%	指状ミドリイシ属の小型群体があるが、数は少ない。ソフトコーラルが優占する。オニヒトデ食痕や白化なし。被度は昨年同様。
	円	0	10%	指状ミドリイシ属の小型群体があるが、数は少ない。全体的にソフトコーラルが優占する。オニヒトデ食痕や白化なし。被度は昨年度同様。
	今井崎	0	30%	ソフトコーラル、ハードコーラルともに変化なく元気な状態。波当たりが強く、ニオウミドリイシ等も見られる。食害なし。被度は昨年度同様。
	ハナゴイ	0	40%	食害なし。パラオハマサンゴ、ユビエダハマサンゴ、コブハマサンゴ群落がつながる。ミドリイシ群体は少ない。夏に少し白化したがその後回復。
	赤尾木	0	30%	砂地に点在するハマサンゴは昨年度と同じく健全。ミドリイシ属群体も昨年と変化なし。オニヒトデを1個体確認。被度は微増。
	白浦	0	15%	昨年と変化なし。コブハマサンゴは健在。樹枝状ミドリイシ属群体が減少。オニヒトデ食痕や白化なし。被度は微増。
	戸ロアーチ	0	25%	ミドリイシ属群体は少ない。ハマサンゴ、ソフトコーラルが優占。オニヒトデ食痕や白化なし。被度は昨年同様。
	戸ロアウン	0	25%	ハマサンゴ、ソフトコーラルが優占。指状ミドリイシ属小型群体がまばらに見られる。オニヒトデ食痕や白化なし。被度は昨年同様。
	ウマズバマ	0	25%	食害等は見られない。ソフトコーラルが優占。半球状サザナミサンゴ科群体や被覆状コモンサンゴ属群体がみられる。被度は昨年同様。

協議会

令和2年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
	戸口落水	0	25%	直径30cm程度の指状ミドリイシ属が多い。卓状のクシハダミドリイシ大型群体も少数見られる。オニヒトデ食痕や白化なし。被度は昨年同様。
	久場	0	25%	水深3mのユビエダハマサンゴは死滅状態。水深5mからユビエダハマサンゴが少し目立つ。水深10m以上はエダセンベイサンゴ等の群落が広がる。
	倉崎	1	20%	塊状ハマサンゴが優占。直径60cm程度の卓状ミドリイシ群体も少数見られる。白化群体が少数みられた。被度は微減。

令和2年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
瀬戸内町	安脚場	-	60%	前年度と比較すると、被度が増加した。
	黒崎	-	25%	前年度と比べると、被度の変化はなかった。
	実久	-	60%	前年度よりサンゴが大きくなっている。
	デリキョンマ岬	-	25%	浅瀬のサンゴが台風で数カ所つぶれている。
喜界町	花良治	0	55%以上～60%未満	オニヒトデの食痕は見られない。卓上ミドリイシ類が多い。水深5mにサルバが多い。白化現象はなし。
	塩道	0	60%以上	オニヒトデの食痕は見られない。卓上ミドリイシ類が多い。水深5mにサルバが多い。白化現象はなし。
	荒木	0	60%以上	オニヒトデの食痕は見られない。アオサンゴが見られる。白化現象はなし。
徳之島町	畦	10	70%	食痕はなし。生育良好。水温低下による白化は少し見られた。
	母間	24	70%	食痕はなし。生育良好。水温低下による白化は少し見られた。
天城町	千間沖／院浜沖／千間南	0	20%～30%	新しいミドリイシサンゴ類が増えつつある。浅場に近いほど、成長が早い状況である。
	ツインポイント	0	25%～30%	サンゴ礁個体はしっかりと成長を続けている。小型のサンゴが増えつつある。
伊仙町	喜念	7	50%～74%	昨年と比べると数は少ない。サンゴの発育は良好である。
	喜念(コバンシャ)	6	50%～74%	昨年と比べると数は少ない。サンゴの発育は良好である。
	面縄	5	25-49%	昨年と比べると数は少ないが、サンゴの枯れが少々あった。
	検福	2	50-74%	オニヒトデのサイズは小型、サンゴの状態は良好である。
和泊町	西原	0	20%	前回と大きな変化はなし。
	出花	0	20%	本調査時には食痕はみられなかった。
	ワンジョ	0	20%	本調査時には食痕はみられなかった。
	イダシチ	0	20%	順調に回復してきている。台風による破損もみられなかった。
知名町	沖泊り沖	0	25%以上50%未満	レイシガイの影響も例年ほどではない。ただ被害が出ているところは奥深くまで被害あり。
	屋子母	0	25%以上50%未満	他のポイントより白色現象は少ない。
	ウジジ浜沖	0	25%以上50%未満	傷面が小さくなってきている。隣接の被覆状サンゴの多くは白化減少が目立った。
与論町	長崎沖(長崎の塔)	0	22.5%	不良
	赤崎沖(礁斜面)	0	24%	不良
	赤崎沖(礁池内)	0	43%	やや不良
	皆田沖(礁池内)	0	17.5%	不良
	茶花沖(ニュードロップ)	0	47.5%	やや不良
	茶花沖(宮殿東)	0	43.8%	やや不良